

三重県公共工事共通仕様書(平成24年7月)第2回正誤表

編	章	節	項	ページ	誤	正	備考																																															
第1編 共通編	第1章 総則		1-1-22 監督員による 検査(確認を含 む)及び立会等	1-23	7.段階確認 の臨場 (表1-2 段 階確認一覽 表)	<table border="1"> <tr> <td>現場編</td> <td>地土工</td> <td>基礎掘削完了時</td> <td>基脚高 (0.00mに3.0)</td> <td>一般: 30%程度/1構造物 重点: 60%程度/1構造物</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">工 事 用 水 農 業 用 水</td> <td>止水板</td> <td>設置完了時</td> <td>材料、設置位置及び接合状況</td> <td>全数</td> </tr> <tr> <td>作業立坑</td> <td>掘削完了時</td> <td>立坑寸法</td> <td>全数</td> </tr> <tr> <td>管布設工</td> <td>掘削完了時</td> <td>管布設高、掘削断面の寸法 増設、材料、土止工の寸法</td> <td>1回/1工事以上</td> </tr> <tr> <td>管接合工</td> <td>管接合完了時</td> <td>基礎状況、管径、基脚高等</td> <td>一般: 30%程度/1構造物 重点: 60%程度/1構造物</td> <td>1回/1工事以上</td> </tr> </table>	現場編	地土工	基礎掘削完了時	基脚高 (0.00mに3.0)	一般: 30%程度/1構造物 重点: 60%程度/1構造物	工 事 用 水 農 業 用 水	止水板	設置完了時	材料、設置位置及び接合状況	全数	作業立坑	掘削完了時	立坑寸法	全数	管布設工	掘削完了時	管布設高、掘削断面の寸法 増設、材料、土止工の寸法	1回/1工事以上	管接合工	管接合完了時	基礎状況、管径、基脚高等	一般: 30%程度/1構造物 重点: 60%程度/1構造物	1回/1工事以上	<table border="1"> <tr> <td>現場編</td> <td>地土工</td> <td>基礎掘削完了時</td> <td>基脚高 (0.00mに3.0)</td> <td>一般: 30%程度/1構造物 重点: 60%程度/1構造物</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">工 事 用 水 農 業 用 水</td> <td>止水板</td> <td>設置完了時</td> <td>材料、設置位置及び接合状況</td> <td>全数</td> </tr> <tr> <td>作業立坑</td> <td>掘削完了時</td> <td>立坑寸法</td> <td>全数</td> </tr> <tr> <td>管布設工</td> <td>掘削完了時</td> <td>管布設高、掘削断面の寸法 増設、材料、土止工の寸法</td> <td>1回以上/1工事</td> </tr> <tr> <td>管接合工</td> <td>管接合完了時</td> <td>基礎状況、管径、基脚高等</td> <td>一般: 30%程度/1構造物 重点: 60%程度/1構造物</td> <td>1回以上/1工事</td> </tr> </table>	現場編	地土工	基礎掘削完了時	基脚高 (0.00mに3.0)	一般: 30%程度/1構造物 重点: 60%程度/1構造物	工 事 用 水 農 業 用 水	止水板	設置完了時	材料、設置位置及び接合状況	全数	作業立坑	掘削完了時	立坑寸法	全数	管布設工	掘削完了時	管布設高、掘削断面の寸法 増設、材料、土止工の寸法	1回以上/1工事	管接合工	管接合完了時	基礎状況、管径、基脚高等	一般: 30%程度/1構造物 重点: 60%程度/1構造物	1回以上/1工事	
			現場編	地土工	基礎掘削完了時	基脚高 (0.00mに3.0)	一般: 30%程度/1構造物 重点: 60%程度/1構造物																																															
			工 事 用 水 農 業 用 水	止水板	設置完了時	材料、設置位置及び接合状況	全数																																															
				作業立坑	掘削完了時	立坑寸法	全数																																															
管布設工	掘削完了時	管布設高、掘削断面の寸法 増設、材料、土止工の寸法		1回/1工事以上																																																		
管接合工	管接合完了時	基礎状況、管径、基脚高等	一般: 30%程度/1構造物 重点: 60%程度/1構造物	1回/1工事以上																																																		
現場編	地土工	基礎掘削完了時	基脚高 (0.00mに3.0)	一般: 30%程度/1構造物 重点: 60%程度/1構造物																																																		
工 事 用 水 農 業 用 水	止水板	設置完了時	材料、設置位置及び接合状況	全数																																																		
	作業立坑	掘削完了時	立坑寸法	全数																																																		
	管布設工	掘削完了時	管布設高、掘削断面の寸法 増設、材料、土止工の寸法	1回以上/1工事																																																		
管接合工	管接合完了時	基礎状況、管径、基脚高等	一般: 30%程度/1構造物 重点: 60%程度/1構造物	1回以上/1工事																																																		
	1-24			<table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>細 別</th> <th>確認時期</th> <th>確認項目</th> <th>確認の程度</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">工 事 用 水 農 業 用 水</td> <td>鋼管(第1編 1-1-30の規格品 以外)</td> <td>外観寸法等 製作完了時</td> <td>寸法、外観</td> <td>1本/10本 (最低1本)</td> </tr> <tr> <td>鋼管製作(第1編 1-1-30の規格品 以外)</td> <td>寸法、塗装、外観</td> <td>寸法(長さ、厚さ、両端の 塗装(厚さ、シンボール)、外観</td> <td>1本/10本 (最低1本)</td> </tr> <tr> <td>伸縮管、可伸縮管等 (第1編1-1-30の 規格品以外)</td> <td>機能、形状寸法 塗装、外観</td> <td>機能、寸法、塗装(厚さ、状況)、 外観</td> <td>全数</td> </tr> <tr> <td>螺旋管、 流動断面管等 (第1編1-1-30の 規格品以外)</td> <td>機能、形状寸法 材料、表示、外観等</td> <td>機能、寸法、表示、寸法 塗装(厚さ、状況)、外観</td> <td>全数</td> </tr> </table>	種 別	細 別	確認時期	確認項目	確認の程度	工 事 用 水 農 業 用 水	鋼管(第1編 1-1-30の規格品 以外)	外観寸法等 製作完了時	寸法、外観	1本/10本 (最低1本)	鋼管製作(第1編 1-1-30の規格品 以外)	寸法、塗装、外観	寸法(長さ、厚さ、両端の 塗装(厚さ、シンボール)、外観	1本/10本 (最低1本)	伸縮管、可伸縮管等 (第1編1-1-30の 規格品以外)	機能、形状寸法 塗装、外観	機能、寸法、塗装(厚さ、状況)、 外観	全数	螺旋管、 流動断面管等 (第1編1-1-30の 規格品以外)	機能、形状寸法 材料、表示、外観等	機能、寸法、表示、寸法 塗装(厚さ、状況)、外観	全数	<table border="1"> <tr> <th>種 別</th> <th>細 別</th> <th>確認時期</th> <th>確認項目</th> <th>確認の程度</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">工 事 用 水 農 業 用 水</td> <td>鋼管(第1編 1-1-30の規格品 以外)</td> <td>外観寸法等 製作完了時</td> <td>寸法、外観</td> <td>1本/10本 (最低1本)</td> </tr> <tr> <td>鋼管製作(第1編 1-1-30の規格品 以外)</td> <td>寸法、塗装、外観</td> <td>寸法(長さ、厚さ、両端の 塗装(厚さ、シンボール)、外観</td> <td>1本/10本 (最低1本)</td> </tr> <tr> <td>伸縮管、可伸縮管等 (第1編1-1-30の 規格品以外)</td> <td>機能、形状寸法 塗装、外観</td> <td>機能、寸法、塗装(厚さ、状況)、 外観</td> <td>全数</td> </tr> <tr> <td>螺旋管、 流動断面管等 (第1編1-1-30の 規格品以外)</td> <td>機能、形状寸法 材料、表示、外観等</td> <td>機能、寸法、表示、寸法 塗装(厚さ、状況)、外観</td> <td>全数</td> </tr> </table>	種 別	細 別	確認時期	確認項目	確認の程度	工 事 用 水 農 業 用 水	鋼管(第1編 1-1-30の規格品 以外)	外観寸法等 製作完了時	寸法、外観	1本/10本 (最低1本)	鋼管製作(第1編 1-1-30の規格品 以外)	寸法、塗装、外観	寸法(長さ、厚さ、両端の 塗装(厚さ、シンボール)、外観	1本/10本 (最低1本)	伸縮管、可伸縮管等 (第1編1-1-30の 規格品以外)	機能、形状寸法 塗装、外観	機能、寸法、塗装(厚さ、状況)、 外観	全数	螺旋管、 流動断面管等 (第1編1-1-30の 規格品以外)	機能、形状寸法 材料、表示、外観等	機能、寸法、表示、寸法 塗装(厚さ、状況)、外観	全数					
種 別	細 別	確認時期	確認項目	確認の程度																																																		
工 事 用 水 農 業 用 水	鋼管(第1編 1-1-30の規格品 以外)	外観寸法等 製作完了時	寸法、外観	1本/10本 (最低1本)																																																		
	鋼管製作(第1編 1-1-30の規格品 以外)	寸法、塗装、外観	寸法(長さ、厚さ、両端の 塗装(厚さ、シンボール)、外観	1本/10本 (最低1本)																																																		
	伸縮管、可伸縮管等 (第1編1-1-30の 規格品以外)	機能、形状寸法 塗装、外観	機能、寸法、塗装(厚さ、状況)、 外観	全数																																																		
螺旋管、 流動断面管等 (第1編1-1-30の 規格品以外)	機能、形状寸法 材料、表示、外観等	機能、寸法、表示、寸法 塗装(厚さ、状況)、外観	全数																																																			
種 別	細 別	確認時期	確認項目	確認の程度																																																		
工 事 用 水 農 業 用 水	鋼管(第1編 1-1-30の規格品 以外)	外観寸法等 製作完了時	寸法、外観	1本/10本 (最低1本)																																																		
	鋼管製作(第1編 1-1-30の規格品 以外)	寸法、塗装、外観	寸法(長さ、厚さ、両端の 塗装(厚さ、シンボール)、外観	1本/10本 (最低1本)																																																		
	伸縮管、可伸縮管等 (第1編1-1-30の 規格品以外)	機能、形状寸法 塗装、外観	機能、寸法、塗装(厚さ、状況)、 外観	全数																																																		
螺旋管、 流動断面管等 (第1編1-1-30の 規格品以外)	機能、形状寸法 材料、表示、外観等	機能、寸法、表示、寸法 塗装(厚さ、状況)、外観	全数																																																			
			1-1-39 交通安全管理	1-42	9.交通安全 管理	表1-6 標準車の仕様	9.交通安全 管理	表1-6 標識車の仕様																																														
	第3章 一般施工	第5節 石・ブロック積 (張)工	3-5-3 コンクリートブ ロック工	1-149	12.同込コン クリートの充 填		12.同込コン クリートの充 填																																															
	第5章 無筋、鉄筋コン クリート	第6節 運搬・打設	5-6-7 打継目	1-283	13.排水溝の 施工	排水溝の施工にあたっては、次の各号によらなければならない。	13.排水孔の 施工	排水孔の施工にあたっては、次の各号によらなければならない。																																														
第4編 砂防・地滑り防 止編	第1章 砂防えん堤	第8節 コンクリートえ ん堤工	1-8-2 作業土工(床 掘り・埋戻し)	4-5	9.盛土密度 管理	受注者は、盛土施工において、密度管理不可能なものについては、第1編 4-3-3 盛土工の2項の(5)の規定によるものとする。	9.盛土密度 管理	受注者は、盛土施工において、密度管理不可能なものについては、第1編 4-3-3 盛土工の4項の(5)の規定によるものとする。																																														
			1-8-6 コンクリート側 壁工	4-8	6.排水孔の 適用規定	排水孔の施工にあたっては、第1編 5-3-10 施工継目12項によるものとする。	6.排水孔の 適用規定	排水孔の施工にあたっては、第1編 5-6-7 打継目13項によるものとする。																																														
第6編 道路編	第2章 舗装	第11節 道路植栽工	2-11-2 材料	6-29	6.肥料、土 壤改良材	<p>表2-19標準施用量(参考)【土壌1m<sup>2</sup>当たり】</p> <table border="1"> <tr> <th>土壌改良材</th> <th>施用量</th> </tr> <tr> <td>パーク堆肥</td> <td>25% (250L) + IB化成2.5kg</td> </tr> <tr> <td>下水汚泥を使用した 汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト顆粒)</td> <td>5% (50L)</td> </tr> </table> <p>※「パーク堆肥」を選定する場合は、窒素飢餓現象を起こし生育不良の原因となることがあるので「パーク堆肥」単独での使用は避け、窒素を補うような「緩効性肥料(IB化成)」を併用する。</p>	土壌改良材	施用量	パーク堆肥	25% (250L) + IB化成2.5kg	下水汚泥を使用した 汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト顆粒)	5% (50L)	6.肥料、土 壤改良材	<p>表2-19標準施用量(参考)【土壌1m<sup>2</sup>当たり】</p> <table border="1"> <tr> <th>土壌改良材</th> <th>施用量</th> </tr> <tr> <td>パーク堆肥</td> <td>25% (250L) + IB化成2.5kg</td> </tr> <tr> <td>下水汚泥を使用した 汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト顆粒)</td> <td>5% (50L)</td> </tr> </table> <p>※「パーク堆肥」を選定する場合は、窒素飢餓現象を起こし生育不良の原因となることがあるので「パーク堆肥」単独での使用は避け、窒素を補うような「緩効性肥料(IB化成)」を併用する。</p>	土壌改良材	施用量	パーク堆肥	25% (250L) + IB化成2.5kg	下水汚泥を使用した 汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト顆粒)	5% (50L)	(誤)パーク堆肥 (正)パーク堆肥																																	
土壌改良材	施用量																																																					
パーク堆肥	25% (250L) + IB化成2.5kg																																																					
下水汚泥を使用した 汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト顆粒)	5% (50L)																																																					
土壌改良材	施用量																																																					
パーク堆肥	25% (250L) + IB化成2.5kg																																																					
下水汚泥を使用した 汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト顆粒)	5% (50L)																																																					
第14編 林道編	第2章 舗装	第10節 道路植栽工	2-10-2 材料	14-26	6.肥料、土 壤改良材	<p>表2-19標準施用量(参考)【土壌1m<sup>2</sup>当たり】</p> <table border="1"> <tr> <th>土壌改良材</th> <th>施用量</th> </tr> <tr> <td>パーク堆肥</td> <td>25% (250L) + IB化成2.5kg</td> </tr> <tr> <td>下水汚泥を使用した 汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト顆粒)</td> <td>5% (50L)</td> </tr> </table> <p>※「パーク堆肥」を選定する場合は、窒素飢餓現象を起こし生育不良の原因となることがあるので「パーク堆肥」単独での使用は避け、窒素を補うような「緩効性肥料(IB化成)」を併用する。</p>	土壌改良材	施用量	パーク堆肥	25% (250L) + IB化成2.5kg	下水汚泥を使用した 汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト顆粒)	5% (50L)	6.肥料、土 壤改良材	<p>表2-19標準施用量(参考)【土壌1m<sup>2</sup>当たり】</p> <table border="1"> <tr> <th>土壌改良材</th> <th>施用量</th> </tr> <tr> <td>パーク堆肥</td> <td>25% (250L) + IB化成2.5kg</td> </tr> <tr> <td>下水汚泥を使用した 汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト顆粒)</td> <td>5% (50L)</td> </tr> </table> <p>※「パーク堆肥」を選定する場合は、窒素飢餓現象を起こし生育不良の原因となることがあるので「パーク堆肥」単独での使用は避け、窒素を補うような「緩効性肥料(IB化成)」を併用する。</p>	土壌改良材	施用量	パーク堆肥	25% (250L) + IB化成2.5kg	下水汚泥を使用した 汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト顆粒)	5% (50L)	(誤)パーク堆肥 (正)パーク堆肥																																	
土壌改良材	施用量																																																					
パーク堆肥	25% (250L) + IB化成2.5kg																																																					
下水汚泥を使用した 汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト顆粒)	5% (50L)																																																					
土壌改良材	施用量																																																					
パーク堆肥	25% (250L) + IB化成2.5kg																																																					
下水汚泥を使用した 汚泥発酵肥料 (下水汚泥コンポスト顆粒)	5% (50L)																																																					

三重県公共工事共通仕様書(平成24年7月)第2回正誤表

編	章	節	項	ページ	誤	正	備考																																																																																																																																																																																																																																																																				
出来高管理基準及び規格値	第6編 道路編			111	支承工(鋼製支承) (誤)	<table border="1"> <tr> <td>6 道路編</td> <td>4 鋼橋上部</td> <td>5 鋼橋架設工</td> <td>10</td> <td>1</td> <td rowspan="7">支承工 (鋼製支承)</td> <td>据付け高さ注1)</td> <td>±5</td> <td rowspan="7">支承全数を測定。 B:支承中心間隔(m)  支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動可能量注2)</td> <td>設計移動量 ±10以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>支承中心間隔(橋軸直角方向)</td> <td>±5 4+0.5×(B-2)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>下咨の水平度</td> <td>橋軸方向 橋軸直角方向</td> <td>1/100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動量注3)</td> <td>温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(正)</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>6 道路編</td> <td>4 鋼橋上部</td> <td>5 鋼橋架設工</td> <td>10</td> <td>1</td> <td rowspan="7">支承工 (鋼製支承)</td> <td>据付け高さ注1)</td> <td>±5</td> <td rowspan="7">支承全数を測定。 B:支承中心間隔(m)  支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動可能量注2)</td> <td>設計移動量 ±10以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>支承中心間隔(橋軸直角方向)</td> <td>±5 ±{4+0.5×(B-2)}</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>下咨の水平度</td> <td>橋軸方向 橋軸直角方向</td> <td>1/100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動量注3)</td> <td>温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </td> <td>                     支承中心間隔(橋軸直轄方向)                      (誤) 4+0.5×(B-2)                      (正) ±{4+0.5×(B-2)}                 </td> </tr> <tr> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4"></td> <td rowspan="4">112</td> <td>                     支承工(ゴム支承)                      (誤)                 </td> <td> <table border="1"> <tr> <td>6 道路編</td> <td>4 鋼橋上部</td> <td>5 鋼橋架設工</td> <td>10</td> <td>2</td> <td rowspan="7">支承工 (ゴム支承)</td> <td>据付け高さ注1)</td> <td>±5</td> <td rowspan="7">支承全数を測定。  上部構造部材下面とゴム支承面との接触面、及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動可能量注2)</td> <td>設計移動量 ±10以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>支承中心間隔(橋軸直角方向)</td> <td>±5 4+0.5×(B-2)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>下咨の水平度</td> <td>橋軸方向 橋軸直角方向</td> <td>1/300</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動量注3)</td> <td>温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(正)</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>6 道路編</td> <td>4 鋼橋上部</td> <td>5 鋼橋架設工</td> <td>10</td> <td>2</td> <td rowspan="7">支承工 (ゴム支承)</td> <td>据付け高さ注1)</td> <td>±5</td> <td rowspan="7">支承全数を測定。  上部構造部材下面とゴム支承面との接触面、及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動可能量注2)</td> <td>設計移動量 ±10以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>支承中心間隔(橋軸直角方向)</td> <td>±5 ±{4+0.5×(B-2)}</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>下咨の水平度</td> <td>橋軸方向 橋軸直角方向</td> <td>1/300</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動量注3)</td> <td>温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </td> <td>                     支承中心間隔(橋軸直轄方向)                      (誤) 4+0.5×(B-2)                      (正) ±{4+0.5×(B-2)}                 </td> </tr> </table></td></tr></table>	6 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ注1)	±5	支承全数を測定。 B:支承中心間隔(m)  支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。							可動支承の移動可能量注2)	設計移動量 ±10以上							支承中心間隔(橋軸直角方向)	±5 4+0.5×(B-2)							下咨の水平度	橋軸方向 橋軸直角方向	1/100							同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差	5							可動支承の移動量注3)	温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上								(正)	<table border="1"> <tr> <td>6 道路編</td> <td>4 鋼橋上部</td> <td>5 鋼橋架設工</td> <td>10</td> <td>1</td> <td rowspan="7">支承工 (鋼製支承)</td> <td>据付け高さ注1)</td> <td>±5</td> <td rowspan="7">支承全数を測定。 B:支承中心間隔(m)  支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動可能量注2)</td> <td>設計移動量 ±10以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>支承中心間隔(橋軸直角方向)</td> <td>±5 ±{4+0.5×(B-2)}</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>下咨の水平度</td> <td>橋軸方向 橋軸直角方向</td> <td>1/100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動量注3)</td> <td>温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	6 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ注1)	±5	支承全数を測定。 B:支承中心間隔(m)  支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。								可動支承の移動可能量注2)	設計移動量 ±10以上								支承中心間隔(橋軸直角方向)	±5 ±{4+0.5×(B-2)}								下咨の水平度	橋軸方向 橋軸直角方向	1/100								同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差	5								可動支承の移動量注3)	温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上													支承中心間隔(橋軸直轄方向) (誤) 4+0.5×(B-2) (正) ±{4+0.5×(B-2)}					112	支承工(ゴム支承) (誤)	<table border="1"> <tr> <td>6 道路編</td> <td>4 鋼橋上部</td> <td>5 鋼橋架設工</td> <td>10</td> <td>2</td> <td rowspan="7">支承工 (ゴム支承)</td> <td>据付け高さ注1)</td> <td>±5</td> <td rowspan="7">支承全数を測定。  上部構造部材下面とゴム支承面との接触面、及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動可能量注2)</td> <td>設計移動量 ±10以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>支承中心間隔(橋軸直角方向)</td> <td>±5 4+0.5×(B-2)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>下咨の水平度</td> <td>橋軸方向 橋軸直角方向</td> <td>1/300</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動量注3)</td> <td>温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(正)</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>6 道路編</td> <td>4 鋼橋上部</td> <td>5 鋼橋架設工</td> <td>10</td> <td>2</td> <td rowspan="7">支承工 (ゴム支承)</td> <td>据付け高さ注1)</td> <td>±5</td> <td rowspan="7">支承全数を測定。  上部構造部材下面とゴム支承面との接触面、及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動可能量注2)</td> <td>設計移動量 ±10以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>支承中心間隔(橋軸直角方向)</td> <td>±5 ±{4+0.5×(B-2)}</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>下咨の水平度</td> <td>橋軸方向 橋軸直角方向</td> <td>1/300</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動量注3)</td> <td>温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </td> <td>                     支承中心間隔(橋軸直轄方向)                      (誤) 4+0.5×(B-2)                      (正) ±{4+0.5×(B-2)}                 </td> </tr> </table>	6 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ注1)	±5	支承全数を測定。  上部構造部材下面とゴム支承面との接触面、及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。							可動支承の移動可能量注2)	設計移動量 ±10以上							支承中心間隔(橋軸直角方向)	±5 4+0.5×(B-2)							下咨の水平度	橋軸方向 橋軸直角方向	1/300							同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差	5							可動支承の移動量注3)	温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上								(正)	<table border="1"> <tr> <td>6 道路編</td> <td>4 鋼橋上部</td> <td>5 鋼橋架設工</td> <td>10</td> <td>2</td> <td rowspan="7">支承工 (ゴム支承)</td> <td>据付け高さ注1)</td> <td>±5</td> <td rowspan="7">支承全数を測定。  上部構造部材下面とゴム支承面との接触面、及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動可能量注2)</td> <td>設計移動量 ±10以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>支承中心間隔(橋軸直角方向)</td> <td>±5 ±{4+0.5×(B-2)}</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>下咨の水平度</td> <td>橋軸方向 橋軸直角方向</td> <td>1/300</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動量注3)</td> <td>温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	6 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ注1)	±5	支承全数を測定。  上部構造部材下面とゴム支承面との接触面、及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。								可動支承の移動可能量注2)	設計移動量 ±10以上								支承中心間隔(橋軸直角方向)	±5 ±{4+0.5×(B-2)}								下咨の水平度	橋軸方向 橋軸直角方向	1/300								同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差	5								可動支承の移動量注3)	温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上													支承中心間隔(橋軸直轄方向) (誤) 4+0.5×(B-2) (正) ±{4+0.5×(B-2)}
					6 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ注1)		±5	支承全数を測定。 B:支承中心間隔(m)  支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。																																																																																																																																																																																																																																																													
									可動支承の移動可能量注2)		設計移動量 ±10以上																																																																																																																																																																																																																																																																
									支承中心間隔(橋軸直角方向)		±5 4+0.5×(B-2)																																																																																																																																																																																																																																																																
				下咨の水平度	橋軸方向 橋軸直角方向	1/100																																																																																																																																																																																																																																																																					
				同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差	5																																																																																																																																																																																																																																																																						
				可動支承の移動量注3)	温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上																																																																																																																																																																																																																																																																						
					(正)	<table border="1"> <tr> <td>6 道路編</td> <td>4 鋼橋上部</td> <td>5 鋼橋架設工</td> <td>10</td> <td>1</td> <td rowspan="7">支承工 (鋼製支承)</td> <td>据付け高さ注1)</td> <td>±5</td> <td rowspan="7">支承全数を測定。 B:支承中心間隔(m)  支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動可能量注2)</td> <td>設計移動量 ±10以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>支承中心間隔(橋軸直角方向)</td> <td>±5 ±{4+0.5×(B-2)}</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>下咨の水平度</td> <td>橋軸方向 橋軸直角方向</td> <td>1/100</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動量注3)</td> <td>温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	6 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工		10	1	支承工 (鋼製支承)		据付け高さ注1)	±5	支承全数を測定。 B:支承中心間隔(m)  支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。								可動支承の移動可能量注2)	設計移動量 ±10以上								支承中心間隔(橋軸直角方向)	±5 ±{4+0.5×(B-2)}								下咨の水平度	橋軸方向 橋軸直角方向	1/100								同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差	5								可動支承の移動量注3)	温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上													支承中心間隔(橋軸直轄方向) (誤) 4+0.5×(B-2) (正) ±{4+0.5×(B-2)}																																																																																																																																																																																															
6 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	1	支承工 (鋼製支承)	据付け高さ注1)	±5	支承全数を測定。 B:支承中心間隔(m)  支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。																																																																																																																																																																																																																																																																			
						可動支承の移動可能量注2)	設計移動量 ±10以上																																																																																																																																																																																																																																																																				
						支承中心間隔(橋軸直角方向)	±5 ±{4+0.5×(B-2)}																																																																																																																																																																																																																																																																				
						下咨の水平度	橋軸方向 橋軸直角方向		1/100																																																																																																																																																																																																																																																																		
						同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差	5																																																																																																																																																																																																																																																																				
						可動支承の移動量注3)	温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上																																																																																																																																																																																																																																																																				
				112	支承工(ゴム支承) (誤)	<table border="1"> <tr> <td>6 道路編</td> <td>4 鋼橋上部</td> <td>5 鋼橋架設工</td> <td>10</td> <td>2</td> <td rowspan="7">支承工 (ゴム支承)</td> <td>据付け高さ注1)</td> <td>±5</td> <td rowspan="7">支承全数を測定。  上部構造部材下面とゴム支承面との接触面、及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動可能量注2)</td> <td>設計移動量 ±10以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>支承中心間隔(橋軸直角方向)</td> <td>±5 4+0.5×(B-2)</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>下咨の水平度</td> <td>橋軸方向 橋軸直角方向</td> <td>1/300</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動量注3)</td> <td>温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>(正)</td> <td> <table border="1"> <tr> <td>6 道路編</td> <td>4 鋼橋上部</td> <td>5 鋼橋架設工</td> <td>10</td> <td>2</td> <td rowspan="7">支承工 (ゴム支承)</td> <td>据付け高さ注1)</td> <td>±5</td> <td rowspan="7">支承全数を測定。  上部構造部材下面とゴム支承面との接触面、及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動可能量注2)</td> <td>設計移動量 ±10以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>支承中心間隔(橋軸直角方向)</td> <td>±5 ±{4+0.5×(B-2)}</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>下咨の水平度</td> <td>橋軸方向 橋軸直角方向</td> <td>1/300</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動量注3)</td> <td>温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> </td> <td>                     支承中心間隔(橋軸直轄方向)                      (誤) 4+0.5×(B-2)                      (正) ±{4+0.5×(B-2)}                 </td> </tr> </table>	6 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ注1)	±5	支承全数を測定。  上部構造部材下面とゴム支承面との接触面、及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。							可動支承の移動可能量注2)	設計移動量 ±10以上							支承中心間隔(橋軸直角方向)	±5 4+0.5×(B-2)							下咨の水平度	橋軸方向 橋軸直角方向	1/300							同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差	5							可動支承の移動量注3)	温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上								(正)	<table border="1"> <tr> <td>6 道路編</td> <td>4 鋼橋上部</td> <td>5 鋼橋架設工</td> <td>10</td> <td>2</td> <td rowspan="7">支承工 (ゴム支承)</td> <td>据付け高さ注1)</td> <td>±5</td> <td rowspan="7">支承全数を測定。  上部構造部材下面とゴム支承面との接触面、及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動可能量注2)</td> <td>設計移動量 ±10以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>支承中心間隔(橋軸直角方向)</td> <td>±5 ±{4+0.5×(B-2)}</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>下咨の水平度</td> <td>橋軸方向 橋軸直角方向</td> <td>1/300</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動量注3)</td> <td>温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	6 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ注1)	±5	支承全数を測定。  上部構造部材下面とゴム支承面との接触面、及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。								可動支承の移動可能量注2)	設計移動量 ±10以上								支承中心間隔(橋軸直角方向)	±5 ±{4+0.5×(B-2)}								下咨の水平度	橋軸方向 橋軸直角方向	1/300								同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差	5								可動支承の移動量注3)	温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上													支承中心間隔(橋軸直轄方向) (誤) 4+0.5×(B-2) (正) ±{4+0.5×(B-2)}																																																																																																																																						
					6 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ注1)		±5	支承全数を測定。  上部構造部材下面とゴム支承面との接触面、及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。																																																																																																																																																																																																																																																													
									可動支承の移動可能量注2)		設計移動量 ±10以上																																																																																																																																																																																																																																																																
									支承中心間隔(橋軸直角方向)		±5 4+0.5×(B-2)																																																																																																																																																																																																																																																																
				下咨の水平度	橋軸方向 橋軸直角方向	1/300																																																																																																																																																																																																																																																																					
				同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差	5																																																																																																																																																																																																																																																																						
				可動支承の移動量注3)	温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上																																																																																																																																																																																																																																																																						
					(正)	<table border="1"> <tr> <td>6 道路編</td> <td>4 鋼橋上部</td> <td>5 鋼橋架設工</td> <td>10</td> <td>2</td> <td rowspan="7">支承工 (ゴム支承)</td> <td>据付け高さ注1)</td> <td>±5</td> <td rowspan="7">支承全数を測定。  上部構造部材下面とゴム支承面との接触面、及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動可能量注2)</td> <td>設計移動量 ±10以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>支承中心間隔(橋軸直角方向)</td> <td>±5 ±{4+0.5×(B-2)}</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>下咨の水平度</td> <td>橋軸方向 橋軸直角方向</td> <td>1/300</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差</td> <td>5</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>可動支承の移動量注3)</td> <td>温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	6 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工		10	2	支承工 (ゴム支承)		据付け高さ注1)	±5	支承全数を測定。  上部構造部材下面とゴム支承面との接触面、及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。								可動支承の移動可能量注2)	設計移動量 ±10以上								支承中心間隔(橋軸直角方向)	±5 ±{4+0.5×(B-2)}								下咨の水平度	橋軸方向 橋軸直角方向	1/300								同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差	5								可動支承の移動量注3)	温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上													支承中心間隔(橋軸直轄方向) (誤) 4+0.5×(B-2) (正) ±{4+0.5×(B-2)}																																																																																																																																																																																															
6 道路編	4 鋼橋上部	5 鋼橋架設工	10	2	支承工 (ゴム支承)	据付け高さ注1)	±5	支承全数を測定。  上部構造部材下面とゴム支承面との接触面、及びゴム支承と台座モルタルとの接触面に肌すきが無いことを確認する。支承の平面寸法が300mm以下の場合は、水平面の高低差を1mm以下とする。なお、支承を勾配なりに据付ける場合を除く。 注1)先固定の場合は、支承上面で測定する。 注2)可動支承の遊間(La,Lb)を計測し、支承据付時のオフセット量rを考慮して、移動可能量が道路橋支承便覧の規格値を満たすことを確認する。 注3)可動支承の移動量検査は、架設完了後に実施する。詳細は、道路橋支承便覧参照。																																																																																																																																																																																																																																																																			
						可動支承の移動可能量注2)	設計移動量 ±10以上																																																																																																																																																																																																																																																																				
						支承中心間隔(橋軸直角方向)	±5 ±{4+0.5×(B-2)}																																																																																																																																																																																																																																																																				
						下咨の水平度	橋軸方向 橋軸直角方向		1/300																																																																																																																																																																																																																																																																		
						同一支承線上の可動支承のずれの 相対誤差	5																																																																																																																																																																																																																																																																				
						可動支承の移動量注3)	温度変化に伴う 移動量計算値 の1/2以上																																																																																																																																																																																																																																																																				